



題字 井口 文章
再刊 第268号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2018

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：錦城生はこの夏をどう過ごすのか？
二面：1年生が取り組む「ポートフォリオ」とは
法政大学のOC代表を務める、錦城51回生

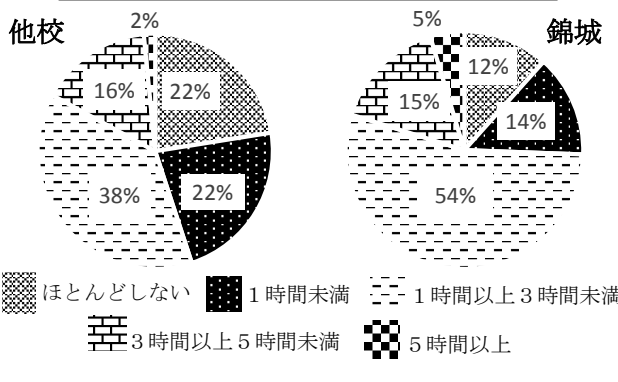
錦城流！夏の過ごし方

錦城生・他校生 各128人アンケート実施

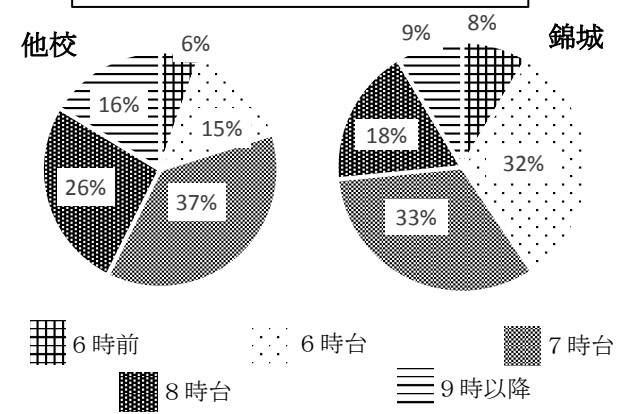
明日7月21日(土)から夏休みが始まる。新聞委員会編集部は錦城生、他校生それぞれ128人にアンケートを実施し、夏休みに関する8つの質問に答えてもらった。錦城生と他校生のアンケート結果をそれぞれ比較すると、錦城生の夏休みの実態が見えてきた。

いよいよ夏休みがスタートするが、錦城生はどんな夏休みを過ごすだろうか。新聞委員会編集部は編集委員の友人の錦城生、そして同じ中学校だった他校生の、どちらも1、2年生にアンケートを行い、夏休みの予定を比較してみた。アンケートの対象は男子

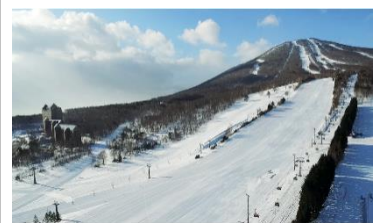
夏休みに毎日何時間勉強する予定ですか



夏休みに毎日何時に起床しますか



起床時間から見る傾向
次に錦城生の起床時間はどうか。夏休みに毎日何時に起床しますかという質問に対し、錦城生のうち73%が7時台より前に起きる予定となり、アンケートの他校結果よりも早い結果となった。



冬の安比高原スキー場のゲレンデ (石塚先生提供)

どうなる？55回生修学旅行 安比へ下見、スキーへ向けて準備

5月半ばに55回生の修学旅行先が安比になったことが発表されてから約2か月。7月9日(月)から10日(火)、実際に安比に足を運んだ修学旅行チームの石塚友規先生に現在の進捗状況を聞いた。「まだ何も決まっていなため、実際に足を運んで得た情報をもとにこれから決めていく」と石塚先生は話す。

どうして直せないの？



ある1年生の教室。ビニールと紙がいっしょに捨てられている。

最近「ゴミの分別ができていない」とゴミの回収業者から苦情が寄せられている。特別授業「燃えないゴミの置き場に置く」の日の朝、HR前に新聞委員が「燃えないゴミの置き場に置く」の注意喚起などにより改善の傾向にあったはず。しかし、新しい容器やプラスチックの弁当パックが燃えるゴミの中に多く戻ってしまった。また、食堂ではジュースの紙パックにストローが刺さったまま捨てられているのが目立った。

多かった分別間違いの例

燃えるゴミ	燃えないゴミ
×アルミのゼリー飲料	×ティッシュ
×ストロー	×割りばし
×ビニール袋	

ゴミ箱に貼ってある分別表を見てから、捨てよう！

「天災は忘れたころにやってくる」と言う。もし明日自分の住む町が被害を受けた時、正しく行動できるだろうか。人間の想定する以上想定外をゼロにすることは難しい。それでも誰か頼みの防災ではなく、個人の防災意識を高めることが必要だろう。この水害を機に一人一人が、自分のこととして災害について備えることが大切だ。と思った避難場所や家の備蓄、緊急時の家族の集合方法はどうなっているのか確認しておくことは災害に対する大事な準備の一つだ。防災に備えずぎというものは無い。この機会に一度確認してみよう。今回の教訓や課題が予測されている南海トラフ大地震や首都直下地震の対策になることを、願ってやまない。(梅)

むらさき草
西日本を襲った今月の豪雨、一面茶色に染まった町やものすごい勢いの濁流をニュースで目にして本当に恐ろしいと思った。1府13県で死者は223人、行方不明者14人と平成最悪の被害を記録し、避難者も約4700人とまだまだ多い状況が続く(朝日新聞7月19日朝刊より)▼これまでの報道を見ると、今回の災害では、警報が発令されていても大きな被害に繋がらないだろうと思われ、被害が十分に防げなかった事例が多かった。▼浸水や濁流で被害を受けた地域は、ハザードマップで予想されていたものとかかなり一致したという(朝日新聞7月10日朝刊より)。この話を聞いて、自宅にあった昭島市から配られていたハザードマップを見てみたが、家の近くまで浸水予想があつたハザードマップを見た▼7年3か月前の東日本大震災では「想定外」という言葉を多く聞いた。今でも災害の時はいざ知らず、人間の想定する以上想定外をゼロにすることは難しい。それでも誰か頼みの防災ではなく、個人の防災意識を高めることが必要だろう。この水害を機に一人一人が、自分のこととして災害について備えることが大切だ。と思った避難場所や家の備蓄、緊急時の家族の集合方法はどうなっているのか確認しておくことは災害に対する大事な準備の一つだ。防災に備えずぎというものは無い。この機会に一度確認してみよう。今回の教訓や課題が予測されている南海トラフ大地震や首都直下地震の対策になることを、願ってやまない。(梅)

「朝から部活動があるため早く起きます」と話す。また、基本的に活動が午後の新聞委員会の編集委員の中にも「朝勉強するため」「新学期が始まるのも朝起きることができるようになる」との理由から7時台より前に起きる予定の人がいた。

人気が高いスポットは
錦城生は夏にどんなところに行きたいのか。自由回答のアンケートの結果をトップ5のランキング化した。結果は他校生も聞いてみたが、1位がディズニー、2位が海となつた。3位以降も祭りや花火、プールといった夏らしい場所に行きたいと感じる人が多いようだ。夏はディズニーに行きたいと回答したひとは「いつも土日を含めて部活や勉強で忙しいので、遠い行楽地で、日々の疲れを吹き飛ばすために」と話した。今年のはじめにディズニーが一番と話した。今年の夏は猛暑が続いているので外出時には熱中症に注意しよう。

夏休みにいきたいところランキング

錦城生	他校生
①ディズニー(33人)	①ディズニー(26人)
②海(17人)	②海(17人)
③花火(16人)	③プール(16人)
④プール(16人)	④祭(11人)
⑤買い物(13人)	⑤花火(10人)

「百花繚乱」の言葉のよう
に、錦城生一人ひとりの個性が溢れるような錦城祭にした」と話した。現在は各クラス、部活、委員会の企画書が全て揃ったため企画や諸注意の説明をしている。去年のスタンプリーではスタンプの置き場所がたくさんあつた

「百花繚乱」の言葉のよう
に、錦城生一人ひとりの個性が溢れるような錦城祭にした」と話した。現在は各クラス、部活、委員会の企画書が全て揃ったため企画や諸注意の説明をしている。去年のスタンプリーではスタンプの置き場所がたくさんあつた

錦城祭ポスター完成
百花繚乱に向けまい進
着々と準備が進む錦城祭
今年のテーマはたくさんのお花が美しく咲き乱れる様子を表現する「百花繚乱」。錦城祭実行委員長の近藤さん(21)は「百花繚乱」のテーマのもと「あなたに魅力的」という花言葉を持つ。普段の学校生活だけでは、クラスメイトが部活や趣味に全力で取り組む姿を見ることのできる機会が少ないと感じるという高田さん(20)。2年生。ラナンキュラスを真ん中に選んでから絵を描く機会に「錦城祭では普通にあることではない」と思ふ。自分が見たいという意図をこめて描きました」と話した。錦城祭まであと2ヶ月を切った。夏休み期間を有効活用して、当日に悔いの残らないよう計画的に企画の準備を進めていこう。(植英)

新大学入試に対応するために

1年生に「ポートフォリオ」導入

2020年の大学入試改革に向けて、今年度から「ポートフォリオ」という新しい制度が錦城に導入された。ポートフォリオとは何なのか。見本となるポートフォリオの書き方から、実際にポートフォリオを活用する1年生の話まで徹底取材した。

(編集部共同取材)

1年生が始めている「ポートフォリオ」とは

今年度から56回生に導入されたポートフォリオ。ポートフォリオとは「学びの蓄積」を意味する言葉だ。1年生は4月からベネッセコーポレーションが運営する「Class」というサービスを、使い、テスト、部活動、英語検定、ボランティア活動など、高校生活を通して、「気づいたこと」や「学んだこと」を振り返り、学習履歴として残している。ちなみに、このClassはパスワードで保護されていて自宅からでもログインできる。1年生は自宅のパソコンや自分のスマホで活用している。

なぜ今ポートフォリオか

なせこのポートフォリオが始められたのか。ポートフォリオ作成チームの石井智先生に話を聞いた。石井先生によると、導入した一番の理由は56回生から大学入試制度が変わることだ。これまで大学の入試はテストの点数で選んでいたため、入学後何を勉強したのかなど目標が曖昧なまま入学する学生が多かった。大学は「世界と戦うこと」が出来る人材を育てるため、教育改革を試みている。さらに2021年からは現行のセンター試験が廃止され「大学入学テスト」開始する。それにより「思考力・表現力・判断力」が重視され、主体性に学ぶことが求められるようになる。



「記録は具体的にしていこう」と話す石井先生

を活用しての学習が始まった。大学入試が変わったからではなく、これからの社会が求める人材が変わったから教育改革が行われたと分かっていて欲しい」と石井先生は念を押す。

ポートフォリオの活用方法

実際の入試では、大学が求める項目を3年間蓄積したポートフォリオからまとめ「学びの記録」として提出する事が求められる。さらに、まとめたいものをもとに教員が調査書を書くことになる。3年間の錦城生活の記録が求められるので、定期的に学習履歴を更新して、振り返ることが大事だ。

実際に活用する1年生にも聞いてみた

56回生の堀田美紗子さん(1L)は、ポートフォリオの活用は効率的だと話す。学年から配信される課題の他に、自分が考えたこと、思ったこと、感じたことを日々の学習として蓄積していくことは、未来への財産になるだろう。1年生に限らず、2、3年生も自分の学びを書き溜める習慣をつけよう。

自分が考えたこと、思ったこと、感じたことを日々の学習として蓄積していくことは、未来への財産になるだろう。

有志合唱団3年生、最後の合唱

6月23日(土)に視聴覚室Aで有志合唱団がコンサートを行った。3年生最後のコンサートということで、一曲一曲に感情がこもっていた合唱曲に感動がこもっていた合唱曲だった。



楽しい演出で合唱全体が盛り上がる

第1部の2曲目である「次元」は、男声三部合唱で歌い上げた。この曲は2016年度NHK全国学校音楽コンクール高校生の部の課題曲となった。この曲は、全員が手に持っていたボードを1つにまとめ、アリエルが描かれた一枚の絵となった。第3部では引退する3年生へのサプライズとして、1、2年生だけで「青い鳥」を合唱した。少ない人数で歌うのは初

へのサプライズとして、1、2年生だけで「青い鳥」を合唱した。少ない人数で歌うのは初

の挑戦であったが、3年生と観客を魅了した。この曲を歌い終えた後、1人ひとり引退する先輩へ感謝の意を込めてメッセージを送り、有志合唱団員同士の絆の深さを見ることができた。そして、「[All] [All] [All]」と叫ぶ声で幕を閉じた。このコンサートは、曲の最後には「や」と声を合わせ、このコンサートを締めくくった。

有志合唱団は9月の錦城祭でもコンサートを行う。まだまだ団員は募集中なので、興味のある人は普段活動している英会話室に足を運んでみよう。(薫)

書き方のポイント

1年生は4月から「ポートフォリオ」が配られ、活用している。今回の記事では、優秀なポートフォリオを紹介する予定だ。石井先生によると、良い事だけを記録する生徒が多いそうだが、むしろ失敗したことを蓄積する方が良いポートフォリオをつくることのできるそうだ。大切なことは難しく考えず、具体的に自分のことを書くことだ。日記的で具体性に欠けた

生物部に「殿」がやって来た!

5月26日(土)、生物部にケツメリクガメがやって来た。名前は「殿」。部員によって名付けられた。名前の由来を部員の千田雪月さん(2B)は、強く大きく成長してほしいという願いを込めたと話した。1年前に亡くなった同種のカメ「ヒメ」に代わり、後輩に引き継いでいける生物部の活動としてカメを迎える事を決意。今の時期は体重が安定せず、きちんと世話しないと死んでしまうため、温度、エサ、温浴をしっかり管理しているそう。「エサを少しずつ食べているところがかわいい」と千田さん。今後はヒメのように錦城のアイドルとなって欲しいと語ってくれた。(終)



「ヒメ」に代わり、後輩に引き継いでいける生物部の活動としてカメを迎える事を決意。今の時期は体重が安定せず、きちんと世話しないと死んでしまうため、温度、エサ、温浴をしっかり管理しているそう。「エサを少しずつ食べているところがかわいい」と千田さん。今後はヒメのように錦城のアイドルとなって欲しいと語ってくれた。(終)



テニスコートのネットに挟まっていたのを保護されました

2Gみんなのアイドル「和気広虫」

今回のペットは2年G組で飼われている和気広虫(わけのひろむし)という名前前のオスのカブトムシ。名前はクラスでの投票により決まった。担任の上原啓先生が6月中旬にテニスコートにいたのを見つけた。毎日小テニスコートで疲れている生徒達との和みや癒やしになって欲しいという気持ちで飼ってあげた。和気広虫は恐らくヤマトカブトムシだと思われる。ヤマトカブトムシは最も一般的に「カブトムシ」といわれる種で日本のほぼ全域に生息している。基本的に夜行性で、クワガタムシと並び子供たちの人気の昆虫。最近では、スイカやメロンなどの腐りやすいものをエサとして与える下痢を起すと言われる。また、極限状態に陥るとカブトムシは共食いすることもある。注意も必要だ。(薫)

大会報告

弓道部	6月17日(日)	▽全国総体と予選団体戦6団体
6月17日(日)	▽18男子春季3年生大会	チーム6位
6月17日(日)	▽女子3年生大会	チーム3位
6月17日(日)	▽女子インターハイ予選	チーム5位
6月24日(日)	▽18女子春季2年生大会	チーム4位
6月30日(土)	個人総合4位	
6月30日(土)	跳馬4位・ゆか2位	
6月30日(土)	段違い平行棒3位	
6月30日(土)	窪田千春(2C)	
7月1日(日)	▽男子国体予選チーム4位	
7月1日(日)	▽女子国体予選チーム4位	
7月14日(土)	陸上部	
7月14日(土)	▽東京都高等学校1年生大会	
7月14日(土)	女子100m YH	6位
7月14日(土)	井草守琳(1J)	

卒業生 オープンキャンパスで代表を務めるOB

オープンキャンパスの心構え
この夏、法政大学小金井キャンパスで行われるオープンキャンパス(以下オーキャン)で学生代表を務めている、錦城51回生の膽澤宏太さんに話を聞いた。昨年、理系を専門とする小金井キャンパスでは2日間で6000人を動員したそうだ。オーキャンスタッフは、キャンパスムービーの制作や学生目線からの大学説明などを行い、自分達の大学の良さを伝える仕事をしている。胆澤さんはそれらをまとめており、法政大学の知識なら「1聞いてくれたら100のことを説明できる」という。また、「学生が楽しんでいるか、自分がここでやっていたいかなどの目に見えない雰囲気を感じてほしい」とオーキャンの在り方を語る。大学受験へのモチベーションを作り、やりたいことへの動機付けにもなるので、行くべきであるとアドバイスをくれた。

生徒会活動を通じて得たもの
高校時代には生徒会役員を務めていた。あまり知られていなかった生徒会の動静を伝えるべく生徒会報を出すことを始めたという。またその生徒会は、携帯電話持ち込み認可を廃止した代でもある。話し合いは難航し、自らの代で持ち込み認可を実現させることは出来なかったが、後輩達が達成したと聞いたとき、自分のことのように嬉しかったそうだ。これらの出来事で「自分達がやろうと決めたことを成し遂げる喜び」を体感し、今の活動に生かしている。法政大学のオーキャンは8月4日(土)と8月25日(土)に行われる予定だ。3年生だけでなく1年生や2年生も足を運んでみてはいかがだろうか。(李)



「実際に大学を訪ねることが大切」と話す